

5.12 全大阪労学総決起 8000名決起!

米帝のカーボリア侵攻抗議、愛知訪印反対、日米共同声明実質化阻止

明日、全大阪学生総決起(3と半数学生・6と扇町)に起

昨日、全大阪労学総決起に八千の決起を獲得する。

全大阪の労学諸君。八千名もの労作者、学生が圧倒的決起を獲得した昨日の決起の意義を再度確認しようではないか。そして、その前に現在のインドネシア情勢について我々の基本的な視点を明らかにしたい。南バトナム民族解放戦線、ラオス愛国戦線、インドネシア民族解放戦力の強い革命的立場により、米帝国主義の東南アジアにおける軍事拠点のその失、そこからの一歩促進された後退を余儀なくされた米帝国主義が、自国内の矛盾にもかわらず、カーボリアでのコン、ノル政権樹立のためのクーデターを背後からあやかり、またその政権が揺るがせられてくると、現在のインドネシアでの内閣の一時的転換を行なおうとして、カーボリアに對する軍事侵攻、あるいは北シリア再断を行なうてきた。とりわけ、我々が強調せねばならないことは、この米帝の戦争拡大は、彼等のような、急速に弱体化の過程をたどる者が断末魔において展開する、必死のそして絶望的な策動に他ならないのであり、まさにそれこそが彼等の弱さの宣言であるのだ。彼等の生計は不可避であることを我々は自信をもって言うことができるだろう。次に強調せねばならないことは、愛知外相のインドネシア訪問、アジア会議出席こそ日本帝国主義がその独自の論理に従っての帝国主義的海外侵出を計り、アジアの盟主として上していかにとする露骨な野望の表われであり、また昨年の日米共同声明の実質化以外の他物でもないということである。まさにアジア会議において積極的にインシアを發揮するなかからアジアに對する政治的地位の上昇をねらうものである。かかる基本的な視点を踏まえた後、昨日の斗争の意義を語るなら、それは米帝の侵攻はもとより、それを契機として一つ展開しようとする日帝の策動を我々のこの本土における決起の昂揚を武器として一つ阻止していく、そのような決起であったのだ。この決起はこのように日帝の動向を鋭く洞察し、断固たる決意で彼等を封じこめていく決起であったが故に、まさしくあの428斗争の昂揚を継承し、それをより発展させ、6月の日米共同声明にゼネストの叫びへと直結させていかなばならぬ決起であったのだ。

明日、全大阪学生総決起へ決起せよ

全大阪の労学諸君。昨日のような斗争の原則的な部隊こそが、唯一この70年代反帝保、反独占斗争を担い、うる部隊であるということがますます明白となってきているだろう。それだけにとどまらず我々は昨日の決起の事例の力で、十年一日のことく日本の米帝への従属を語り、従って、その海外進出の激しい攻撃的行動を知りえない、民権諸君の誤りを断固として批判し、彼等がこの大阪では労作者との連帯を拒否しているセクシ的な態度を断じて許すことはできないのだ。また彼等と相互補完物としてある反帝八派の諸君に至っては、インドネシア民族解放戦力との連帯の視点を欠落させた、彼等の反帝、反スタの論理は、することができないほど犯罪的であるが故に彼等の内容を暴露し、それに断固批判していかねばならないのだ。これら「左」右の日和見解を排し、我々は再度原則的な決起を展開しようではないか。即ち、米帝のカーボリア侵攻抗議、愛知の訪印反対、日米共同声明実質化阻止のスローガンのもと、14日の全大阪学生総決起に立ち上っていかうではないか。

平和と民主主義をめざす

学生共闘